

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

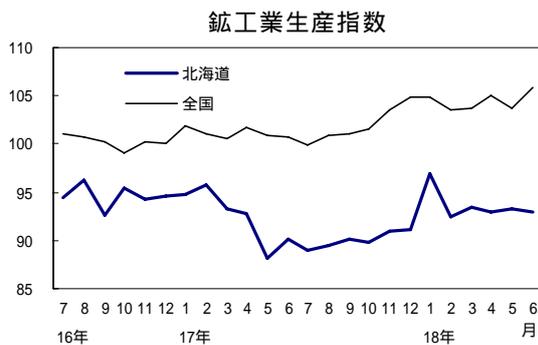
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 18 年 5 月)	今回 (平成 18 年 8 月)	
観光	やや減少	増加	
住宅建設	大幅に増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年並みとなり、水産業の水揚量は前年を下回っている。
 生乳生産は、牛乳等向け、乳製品向けともに増加したことから、総量では、971,709t と前年比で 0.5% 増となった。水産業(主要 11 港主要品目)は、たらは前年を上回ったが、すけとうだらとほっけが前年を大きく下回ったことから、水揚量は前年を下回っている。

(2) 鉱工業生産は増加している。
 食料品・たばこは、ビールや発泡酒、塩蔵品は好調であったが、道産米が、本州向けの需要が一服したことから減少し、全体としては横ばいとなっている。パルプ・紙は、道内外の広告向けの印刷用紙(塗工)や新聞巻取紙の需要は堅調だったものの定期修理の影響から減少した。電気機械は、携帯電話向けや自動車関連向け、デジタル家電向けの受注が引き続き好調なことから高水準で推移している。窯業・土石は、3月にあったセメント製造ラインの定期修理の反動増などにより増加した。金属製品は、携帯電話用の鉄塔の受注が一段落したことなどから減少している。また、輸送機械では、自動車駆動伝導装置など自動車部品が高操業を続けている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
食料品・たばこ	26.5	4.1	0.5	0.7	0.4
パルプ・紙	12.1	3.0	2.1	0.6	3.0
電気機械	9.5	9.1	1.9	2.7	29.7
窯業・土石	9.0	4.8	1.8	1.5	5.9
金属製品	9.0	6.6	1.6	1.0	7.7
鉱工業	100.0	4.1	1.4	1.1	2.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

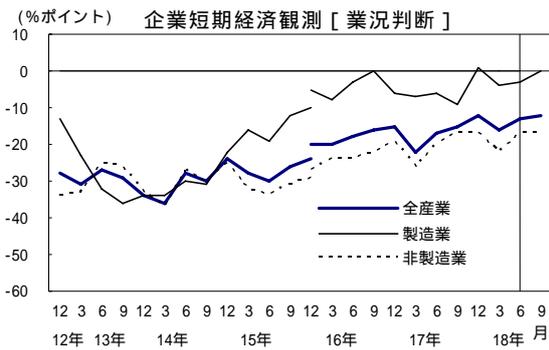
2. 4~6 月期は速報値。

(備考) 1. 12 年 = 100、季節調整値。

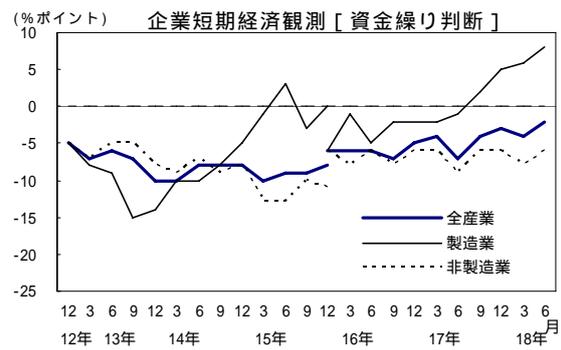
2. 平成 18 年 6 月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

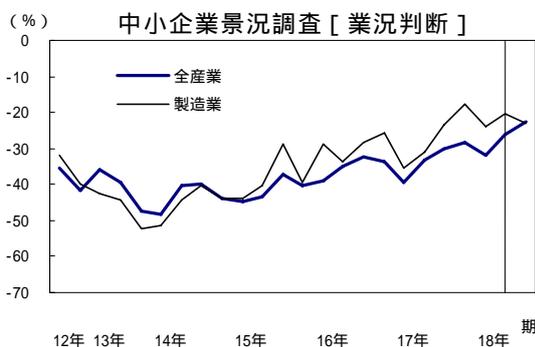
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年9月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

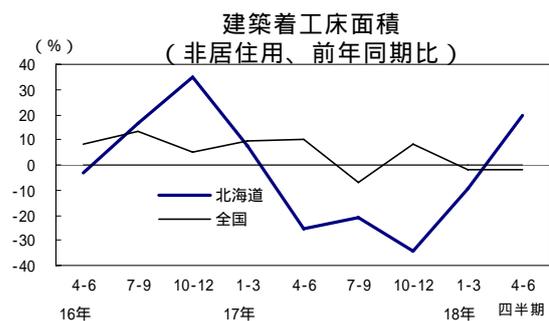
「住宅関連、不動産取引関連とも活発とは見受けられず、可も不可もない状態で推移している(司法書士)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 18年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

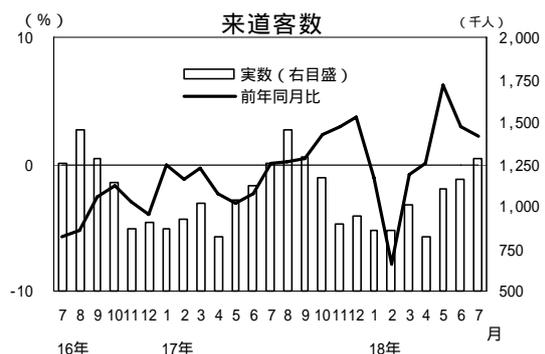
	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	12.5(0.2)	10.9(6.9)
製造業	39.8(7.1)	18.3(12.2)
非製造業	0.5(4.7)	6.7(4.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は増加している。

来道客数は、5月は、好天に恵まれた大型連休の入り込みが好調に推移したことから増加した。6、7月は、旭川や知床への入り込みが引き続き好調だったことに加え、新規参入を背景とした航空運賃の値下げもあり、増加した。



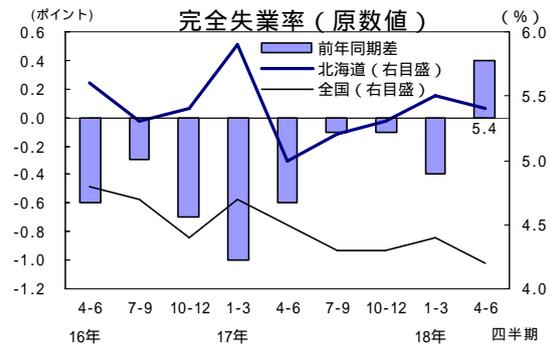
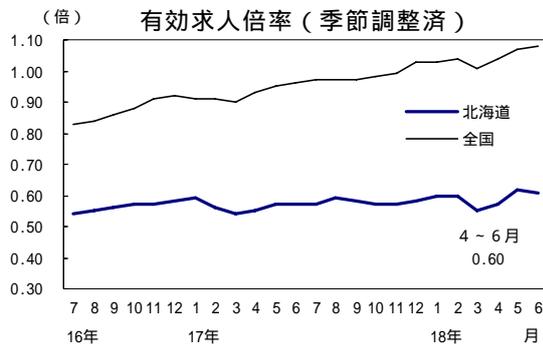
(備考)北海道観光連盟調べ。

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

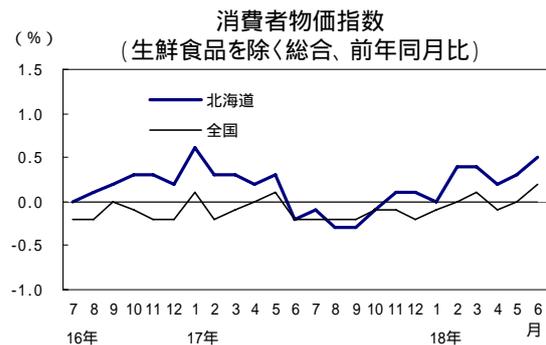
「企業の正社員ニーズが高まっているのか、募集広告が微増しているが、採用に当たっては慎重になっている（求人情報誌製作会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月	18年7月
倒産件数	142	138	143	143	43
(前年比)	29.1	1.5	14.9	8.3	10.4
負債総額	421	376	471	459	359
(前年比)	85.8	26.4	40.2	73.4	48.8



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- 夏セール品の購買動向に2点ほど変化がみられる。1つ目はまとめ買いが減り、単品購買がより多くみられるようになったことであり、2つ目は購買に至るまでの品選びに時間を掛けることである。セール品を短時間でまとめ買いする従来のスタイルが崩れており、消費に対してマイナスの心理が働いている可能性が高い（百貨店）。

<先行き>

- 原油や鋼材など原材料の値上げがあり、とても厳しい状況だが、団塊世代の退職を控え、道内でも戸建注文層が多くなりつつあり、少しは良い状況に推移する（金属製品製造業）。

景気ウォッチャー調査（合計）

